石櫻新聞

第1面
平成14年度入試
2002年のスポーツ

第2面
クラブ紹介

平成14年2月22日発行
第116号
発行　岩手高等学校
盛岡市長田町
印刷　山口北州印刷㈱

入試シーズンたけなわ

平成十四年度 大学入試

推薦合格者　報告

平成十四年度の、大学の推薦合格者が決まった。

主な大学は、岩手医大が三名、盛岡大五名、県立産業技術短大四名、東北学院大五名、日本大四名、同志社大三名である。県内や東北地方の大学を受けた人が多くなっている。

※左の表参照

［二D　今野一徳］

センター試験　速報

大学入試センター試験が一月十九、二十日の二日間の日程で、全国一斉に始まり、我が校の高校三年生も受験した。

国公立大、一部私大を目指す受験生にとっては、試練の第一関門になる。県内では、四会場で、約五千五百名が挑み、我が校の高校三年生も岩手大学での受験をした。この日の盛岡は、厳しい冷え込みなど無く、朝からよく晴れて、絶好の受験日よりだった。

県内で最も多い三千七百余名が受験する岩手大学の会場にも、早めに受験生が集まった。

このセンター試験の結果が、志望校選択を大きく左右しかねないだけに、緊張感を隠せなかったようだ。交通機関の遅れや渋滞などによる大きな混乱は無かったらしい。

問題の難易は例年と比較して、普通だったようだ。

［中二　小西恭平］

我が校の高校三年生でもセンター試験を受けた人が少なくない。最近では、国公立大学だけではなく、私立大学でもセンター試験を利用するところが増加してきているからだ。

試験の翌日には、学校で自己採点の結果が集計された。難問や奇問は無かったが、緊張のため実力が出しきれなかったためか、期待されたほどの得点にならなかったという話を聞いている。引き続いて、二次試験があり、高校三年生は、受験勉強を日々続けている。

［二B　高橋　聖］

漢字検定　学校実施

一月二十五日

漢字検定が一月二十五日、本校で実施された。

十二月ごろ、校内で検定を実施すると連絡された。中学生と高校一年生全員、高校二年の希望者が受検をすることになった。自分の力を考えて級を決めるのだが、合格可能性の高い級を選んだ人もいれば、あえて難しい級に挑戦をした人もいる。

冬休み中に猛特訓をした人もいたはずである。

そして、受検となった。ど忘れする字があったり、突然に正しいか自信が持てなくなる字がある。

受検の後は、だめだったと嘆く人や、まんざらでもなさそうな顔をしている人がいた。結果は四十日後に知らされる。

［二A　武田清慈］

平成十四年度 岩手中・高入試

特進コース　受験者微増

一月十八日に、我が岩手高校の特別進学コースの来年度生の入学試験が行われた。

今年は百二十八名が受験した。去年の受験者は九十名だったので、今年は多くなっている。

受験者が多くなったことの要因には、特進コースの体験入学をしたことが挙げられると思う。

今年度の特進コースの在校生は、十一名である。来年度はもう少し増えてくればよいと思う。

［一F　八重樫　巧］

クラブ推薦　合格者

特進コースの受験と合わせて、クラブ推薦の面接もが行われた。

十数名の応募があったという。中学での実績をもとに、我が岩手高校においてもクラブ活動で成果を挙げてほしい。

合格者の所属するクラブは、野球部のほか、テニス部、ソフトテニス部、柔道部、剣道部である。

［一E　竹花秀樹］

中学合格者やや増

岩手中学校の入学試験も一月十八日に実施された。合格者は九名だった

昨年の中学合格者は八名だった。一昨年は五名だった。つまり、わずかずつではあるが、この三年は増加する傾向が見られる。

ただし、それでも岩手中学への入学者はまだ少ないと言わざるをえない現状であり、今後の課題の一つになっている。

昨年の秋には、中学の担当者が周辺の小学校へ訪問し岩手中学をアピールしてきたということである。その成果が徐々に表れればよいと思う。

今後は、他の中学校には無い、岩手中学独自の活動をするなどして、入学者がもっと増えていくのを期待する。

［一E　橋場大知］

高校一般入試に思う

我が岩手高校の一般入学試験は、例年どおり、二月一日に行われた。

受験者は、五百数十名だった。昨年より少なくなっている。子供が少なくなっている現代と歩調を合わせているのは偶然ではないだろう。

自分の考えでは、岩手県で唯一の男子高校だということも関係があると思う。

しかし、学校の受験レベルがそれほど低いわけではないし、進学校だろうし、盛岡駅に近く通学などにも便利な場所にある。これらのよい点を活かし、中学生が岩手高校に行ってみたいと思うようにしていくことが大切である。

来年は、今年より多くの中学生が受験に来ることを願う。

［二B　高橋　聖］

二〇〇二年のスポーツ

冬季オリンピック

二月九日に開幕するソルトレークシティー冬季五輪の組織委員会関係者は、七十七の国や地域の参加が確定し、さらに一か国が増えて七十八か国となる可能性があると明らかにした。

冬季五輪史上最多の参加は、四年前の長野大会の七十二の国や地域であったから、今大会が最多記録を塗り替えることが確実になった。

米有力スポーツ週刊誌では、ソルトレークシティー冬季五輪で実施される全競技・種目のメダルの行方を予想している。

日本勢は、スピードスケートの男子五百メートルの清水宏保が銀メダルのほか、銅が二つにとどまり、金メダルはゼロ、という予想だった。

三位と予想されたのが、スピードスケート・ショートトラック男子五百メートルの西谷岳文と、フリースタイルスキー女子モーグルの上村愛子である。

清水について、同誌は、「四か月苦しんだ悩ましい腰のけがが、長野五輪のチャンピオンには影響するだろう」と論評している。

前回の長野大会で、日本は、金五、銀一、銅四のメダルを獲得していた。

さて、今回のソルトレークシティー大会では、どうなっているだろうか。

［二A　江苅内祐介］

サッカー世界杯

今年、日韓共同で、サッカーワールドカップが行われます。日本は、Hグループで、初めはベルギー、次はロシア、その次はチュニジアと対戦します。このグループを突破すれば、決勝トーナメントに進出することができます。しかし、そのためには、ロシアのような強豪のチームを倒さなければなりません。

さて、日本は、決勝トーナメントに進出できるのでしょうか。今大会の強豪チームは次のとおりです。

オーエン、ベッカム率いるイングランド。

リバウドが率いるブラジル。

ジダン率いるフランス。

ラウル率いるスペイン。

どのチームも、この大会に合わせて、最高のコンディションで来るでしょう。

日本は、3−5−2で、どう戦うのでしょうか？日本に帰化したばかりの三都主アレサンドロがいます。日本代表のメンバーに選ばれるのでしょうか？期待がかかります。

ところで、フーリガンの対策は、どうなっているのでしょうか？日本の警察はどう対策を練っているのでしょうか？

いろいろと楽しみです。

［二D　平翔太郎］

アメリカ野球界での日本選手の活躍の影響

二〇〇一年アメリカ大リーグでイチロー選手、新庄選手が活躍した。今年もオリックス田口選手、横浜小宮山投手が大リーグに行くことが決定し、一度はヤクルト残留を決めた石井投手も大リーグに行くと言っている。各チームの主力選手が次々移籍し、巨人松井選手、近鉄中村選手も複数年契約を断り、単年で契約して大リーグを視野に入れている。スター選手が大リーグに行けば、当然注目される。

こうして、日本の野球ではなく、大リーグを見た方が面白くなっていく。日本の野球は、テレビをつけても、巨人の試合しかやっていないから、他のチームのファンは見る気にもなれない。また、野球に興味がない人にとっては、野球中継で、見たい番組が潰れたり、九時で試合が終わらず延長されその後の予定が狂ったりする。三十分延長しても試合が終わらない時は、フアンでもつまらない。だから、最近、日本のプロ野球にいいイメージを持たない人もいる。大リーグで日本選手が活躍するにつれて、大リーグとくらべてしまうせいもあると思う。

でも、今年は、日本野球も、セリーグとパリーグで交流試合をしたり、試合時間の短縮のためストライクゾーンを拡大したりすることになっている。なぜストライクゾーンが広くなると試合時間が短くなるかについては述べる余裕がない。

メジャーリーグの影響はとても大きい。日本人選手の活躍を願うとともに、日本のプロ野球がどうなっていくかにも注目したい。

［二B　澤田　渉］

日本の野球　阪神−星野監督　巨人−原監督

昨年、日本一の野球チームは若松監督率いるヤクルトスワローズだった。世界に通用する捕手、古田捕手のリードが優勝に導いた。

そんななか、シーズン途中に巨人軍の長嶋監督が勇退する話が膨らんだ。そろそろ次の世代の原ヘッドコーチ（当時）に指揮権を引き渡したい、という理由であった。巨人軍の二〇〇一年最終戦、長嶋監督は勇退した。僕は少し涙が出た。

巨人のライバルと言えばいつも熱い星野監督だ。星野監督は、現役時代から気合いで投げる投手で、それは、監督になってからも同じだった。中日の原動力と言っても過言ではないくらい、中日ドラゴンズを愛していた。「打倒、読売ジャイアンツ!!」を全面に出した人であった。その星野監督も、長嶋監督と同じ様に、中日を後にした。しかし、星野監督は違った。何と阪神タイガースの野村監督が辞めてしまったのだ。そこで、呼び声の高い星野監督が阪神タイガースの監督に指名された。それを引き受けた星野監督は、「必ず、優勝に導くぞ!!」と打倒巨人の心を今も尚、持ち続けているのだ。

一方、ライバル巨人軍は、原　新！監督が、昨年優勝出来なかったから、「必ず優勝する」と意気込んでいる。

［二C　一戸広樹］

石割桜

二〇〇一年が過ぎ、二〇〇二年になりました。今年は、サッカー世界杯などの明るい話題もありますし、タイヤ直撃事件などの悲しいニュースもありました。

そんな中、私たち岩中・高生の冬休みは終わり、始業となりました。始業してすぐ行われた実力考査では、成績の良かった人、悪かった人、さまざまだったと思います。▼さて、一月から二月にかけて、受験の時期となりました。我が校からも、一足先に大学に推薦で合格した人がいると聞いています。一般受験者も、それぞれの希望大学に合格してほしいと思います。また、大学入試だけでなく、我が岩手中・高校の入試も行われます。学校は、新しい生徒を受け容れる準備で忙しくなってきました。一月のうちに、特進コースやクラブ推薦者や中学の合格者は決まっていますから、もう入学した気分になっている人もいると思います。一般入試で受験する人も、たくさん来てほしいものです。▼いろいろな出来事が起こる二〇〇二年。今年もよい年であってほしいと思います。

［K617］

推薦合格者報告

合否	大学名	学部	学科
◎	岩手大	教育	生涯教育課程
◎	岩手大	工	機械工
◎	青森公立大	経営経済	経営経済
◎	青森大	経営	産業デザイン
◎	青森大	社会	社会
◎	青森大	社会	社会福祉
◎	八戸工大	工	電気電子
◎	八戸工大	工	環境建設工
◎	岩手医大	医	医
◎	岩手医大	歯	歯
◎	岩手医大	歯	歯
◎	盛岡大	文	日本文
◎	盛岡大	文	英米文
◎	盛岡大	文	英米文
◎	盛岡大	文	児童教育
◎	東北学院大	教養	人間科学
◎	東北学院大	工	電気工
◎	東北学院大	工	電気工
◎	東北学院大	工	環境土木工
◎	東北福祉大	総合福祉	産業福祉
◎	秋田経法大	法	法律
◎	秋田経法大	経済	経済
◎	いわき明星大	人文	現代社会
◎	いわき明星大	人文	心理学
◎	城西大	経済	経済
◎	千葉工業大	情報科学	情報工
◎	東海大	政治経済	経営
◎	東京農大	国際食料情報	生物企業情報
◎	東京農大	地域環境	生産環境工
◎	日本大	工	機械
◎	日本大	工	機械
◎	日本大	理工	電気工
◎	日本大	理工	精密機械工
◎	法政大	法	政治
◎	神奈川大	経営	国際経営
◎	北陸大	薬	薬
◎	京都学園大	経営	事業構想
◎	同志社大	文	文化
◎	同志社大	法	法
◎	同志社大	工	電気工
◎	第一薬科大	薬	製薬
◎	県立産業技術短大		メカトロニクス
◎	県立産業技術短大		メカトロニクス
◎	県立産業技術短大		電子技術
◎	県立産業技術短大		電子技術
◎	盛岡大	短期大学	食物栄養
◎	函館短期大	調理栄養コース	食物栄養

クラブ活動報告

体育部

▼剣道部

○第1回「99岩手総体」記念高校剣道錬成大会
10月27日(土)、28日(日)
0－4　東奥義塾高

◎第44回県高校新人大会
11月3日(土)、4日(日)
県営武道館
2回戦
3－2　大野高
3回戦
4－0　千厩高
4回戦準々決勝
1－3　黒沢尻北高
ベスト8

▼サッカー部

◎県高校新人大会
10月19日(金)
県営運動公園
0－4　盛岡第四高
0－3　0－1

▼柔道部

◎第46回県高校新人大会
11月1日(木)～3日(土)
北上総合体育館
個人戦
81kg級
藤原蔵ノ介　ベスト16
遠藤雅樹　ベスト8
佐藤太樹　ベスト16
90kg級
小原幸司　ベスト16

○第41回南部地方柔道大会
11月18日(日)
三戸町民体育館
高校の部　参加10チーム
2回戦
3－2　八戸北高

▼水泳部

○東北高校新人競技大会
10月25日(木)、26日(日)
県営雫石屋内プール
200m背泳
江刺家洋一　総合18位
100m背泳
江刺家　総合16位

○第7回冬季選手権
1月11日(金)～13日(月)
県営雫石屋内プール
100m背泳
二E　江刺家　三位
100m平泳
二D　鈴木　六位

▼ソフトテニス部

○第28回東北私立高校選手権大会
10月26日(金)～28日(日)
盛岡市綱取スポーツセンター
準々決勝
二C高橋　0－4　牛渡
一E中村　伊藤
(東北高)
ベスト8　全日本出場

○第11回県選抜ジュニア大会
11月2日(金)～4日(日)
一関市運動公園テニスコート
決勝トーナメント
高橋3－4西山
中村　井戸渕(軽米高)
佐藤1－4八重樫
下田　兼平　(黒北高)
ベスト16

▼卓球部

◎県高校新人大会
10月26日(金)～28日(日)
宮古市総合体育館
シングルス　1回戦
関　3－1佐藤(花巻農)
藤澤3－1吉田(久慈)
2回戦
関　0－3藤井
(専大北上)
藤澤0－3及川(水沢工)

▼テニス部

○第22回東北選抜高校選手権大会
10月19日(金)～21日(日)
秋田市営八橋コート
団体
(谷地隼人、吉田隆司、高山親也、林一貴、佐藤貴仁、細川悠、福勢康宏、竹浪康弘、布台容)

○平成13年度トヨタジュニア選手権大会
10月27日(土)、28日(日)
太田スポーツセンター
十八歳以下シングルス
谷地隼人　優勝
高山親也　ベスト8
十六歳以下シングルス
竹浪康弘　優勝
布台　容　三位
十八歳以下ダブルス
竹浪・石田　優勝
谷地・高山　準優勝
福勢・布台　三位

◎第3回県中学生新人大会
11月3日(土)、4日(日)
太田スポーツセンター
シングルス
中一　谷地彬人　三位

○全国選抜ジュニア県選考会
中一　谷地彬人　準優勝

○第21回東北選抜ジュニア選手権大会
11月16日(金)～18日(日)
宮城県総合運動公園グランディー21テニスコート
二D　谷地隼人　優勝

○第14回東北新人選手権
11月22日(木)～23日(金)
福島市営庭球場
シングルス1回戦
中一　谷地彬人
対　和泉公太(仙台一中)
3－8

○第14回盛岡市インドアテニストーナメント
1月19日(土)、20日(日)
岩手県営武道館
ダブルス
橋　伸・佐藤友則　優勝

○第22回全日本ジュニア選抜室内テニス選手権大会
1月24日(木)～28日(月)
大阪・江坂テニスセンタ
シングルス1R
対　岩橋
(新潟ジャンボITS)
1－6　1－6
コンソレーションマッチ
対　井上(敦賀気比高)
5－7　3－6

▼バスケットボール部

◎第47回県高校新人大会
盛岡地区予選
10月17日(水)、18日(木)
滝沢東部体育館
代表決定戦
47－89　盛岡第一高
敗者復活戦
105－38　盛大附属高
67－64　盛岡市立高
県大会出場
86－107　花巻北高

▼ハンドボール部

◎第45回県高校新人大会
11月2日(金)
県営体育館
2回戦
25－24　花巻農業高
11－39　盛岡第四高
24－33
24－21
19－24
19－29
ベスト16

▼ラグビー部

○第5回盛岡カップ大会
10月21日(日)
盛岡南公園球技場
0－35　盛岡第一高
15－12　盛岡北高

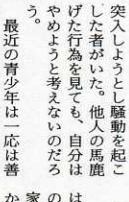
◎第34回県新人大会
11月8日(木)、9日(土)
宮古市老水公園多目的グランド
1回戦
31－12　一関工業高
2回戦
0－58　水沢高

文化部

▼将棋部

○第20回県高校文化連盟将棋新人大会
個人戦A級
二E　田山英亨　三位
二E　佐藤圭一　五位
東北大会出場
二E　阿部俊祐　六位
一C　庵原　佑　七位
個人戦B級
二E　川井倫識　二位
一C　渡山雄也　ベスト8
団体戦
(川井、庵原、阿部)優勝
(佐藤、田山、白崎)二位
※五連覇

○第16回全国オール学生将棋選手権大会
1月11日(金)～14日(月)
東京・毎日ホール、東京将棋会館
決勝トーナメント
1回戦　二F　白崎将旦
一A　川村憲慶
一C　庵原　佑
2回戦　二E　佐藤圭一



高2 修学旅行

僕たちは、昨年の十二月中旬に四泊五日の京都・奈良旅行への修学旅行に行ってきた。

一日目は、六時間くらいかけて、京都につき、寺を巡って終わった。

二日目も寺を巡った。その中で、お坊さんの話を聞いたり、奈良公園に行き鹿にせんべいをあげたりもした。寺や大仏が大きく圧倒されてしまった。こんな大きなものを昔の人が作っていた考えると、すごいことだと思った。

最終日には、一カ所寺を見て岩手に向かった。

この旅行では皆たくさんのものを見て来た。その中で一人一人が何かを学び取ってきたと思う。楽しいこともあり、我慢することもあったけど、少しは成長できたい旅だったと思う。

[二E　砂子天心]

＊

四泊五日という長い旅を通して、みんな得た物は大きいと思う。

五日間で、歴史的意味のあるものをたくさん見た。きっとそれは、社会の勉強の役に立つと思う。また教えられたことを目で確認するいい機会になったはずである。何百年も前に建てられた建物が多少手を加えられながらも、今もしっかりと建っていた。市内をバスで走っていても、古い京都に町並みの名残りを見ることができた。

しかし、おそらくみんなが一番楽しかったのは、宿だと思う。決しておいしいとはいわれない飯だったものの、みんなで囲んだうどんは格別だった。そして、夜遅くまで騒いだり、風呂に入ったり、語り合ったり、脱いだり、まさに男らしい五日間だった。

きっと私たちには行き場所なんてどこでもよかったのだと思います。そこに騒ぐきっかけがあればよかったのです。そして、この旅行で得た最もいいものは友達との思い出だった。

[二E　藤原京平]

三日目には、自主研修があった。それぞれ班に分かれて、事前に調べていた所に行って学んでくるということだった。皆いろいろ回り、無事に帰って来たので成功だった。

四日目にはユニバーサルスタジオに行った。乗り物によっては濡れた人もいたが、楽しく過ごすことができたと思う。この頃になると、最初はホテルに全裸でいた人なども疲れたせいか少し元気がなくなってきていた。

最近のニュースから④

タイヤ直撃事件

正直、この事件の記事を書くまで、事件の存在を全く知らなかった自分は、この原稿もおおよその情報で書いています。すみません。

さて、本題に入ります。

一月某日、トラックの走行中に、なんとタイヤが外れて、道のわきにいた主婦に直撃されて死亡したという事件です。どうしてタイヤが外れたのでしょう。冒頭に書いたとおり、全く事件の存在を知らなかったのでよく分かりません。でも、実際、タイヤが外れるなんて、運転手は何をしていたのでしょうか。整備不良ではなかったようです。運転手は、まさか自分の乗っているトラックのタイヤが外れて人を殺すなんて思ってもみなかったと思います。後で、死亡には至らなくても、同じようにタイヤが外れる事故が何件かあったことも報道されました。

ここ数年、殺人事件が多発しているような気がします。ニュースでも死亡報道が多いようです。また、一人の命が絶たれたかと思うと、とても残念です。いったい、こういう事故、事件はいつまで続くのでしょうか。答えは僕も分かりません。でも、いつの日か、こういう事故、事件が無くなり、平和な世の中が来ることを切に願います。話がだいぶ逸れてしまいました。こうした事故を、不幸な出来事だと、他人事のようにとらえず、その原因や責任や対策にもしっかり目を向けていきたいと思います。

[一C　八幡泰寛]

経済危機

いま日本経済は、放置することができない、深刻な危機に直面しています。

日本経済の六割を占める個人消費は、九三年以来、八年連続で減り続けています。特に消費税の増税などの九兆円の負担増が強行された九七年以降、所得と家計消費の減少が急速に進んでいます。

この三年間で、勤労者世帯の実際に使える「可処分所得」は、月平均二万四千円も、家計消費は一万六千円も減りました。国民一人ひとりの暮らしのための支出、個人消費が、これだけ落ち込んだのは、かつてなかったことです。

昨年、政府は、日本経済の現状を、「緩やかなデフレ状態」にあると認定しました。物価が下がるからといって、「良いこと」というわけにはいきません。物価が下がって、需要が伸び悩むという「デフレ」がこのまま推移するならば、企業の売り上げがますます落ち込み、それが国民の所得と消費、需要をいっそう落ち込ませ、さらに「デフレ」がひどくなるという悪循環に陥るからです。その潮戸際に今、日本は立たされています。

これから日本の景気は、良くなっていくのでしょうか、それとも悪くなっていく一方なのでしょうか。

[中三　高橋智弥]

予餞会開催

二月八日、公会堂で高校三年生を送る予餞会が行われた。

挨拶に続いて、「チキンラン」が上映された。昨年の春に公開されたばかりのクレイアニメーションで、日本の俳優による吹き替え版である。昔、話題になった「大脱走」という映画を思わせるところもあったという。楽しく見られた。

クラブの対抗で、高三の担任の先生のクイズも行われた。

応援団によるエールは、この時のためだけに新しい型が創り出された。

そして、吹奏楽部の演奏があり、先生方の歌♪贈る言葉となった。

壊れる17歳④

十七歳に限られることではなく、青少年、いや日本人の節制の無さは、絶えず伝えられている。

昨年、汚ギャルというのが話題になった。衣服を着続けて、風呂にも入らず、すさまじく汚そうなのだ。自分の体を清潔にする、という感覚が無いのだった。もちろん、周りの人に不快感を与えるということも考えないのだろう。

また、一月の成人式で、去年あれだけ各地でひどさが批判されたというのに、今年また沖縄で酒を持って突入しようとし騒動を起こした者がいた。他人の馬鹿げた行為を見ても、自分はやめようと考えないのだろう。

最近の青少年は一応は善悪の区別はつくが、自分で悪をすることには抵抗力がないのである。他人に迷惑をかけることを気にしないのである。僕は、それが、いわゆる「壊れる十七歳」の原因だと思う。なぜ抵抗力がないのか。それは、やはり家庭や小中学校の教育の甘さだろう。僕は、昔の家庭や学校のことを話でしか聞いたことがない。しかし、父母が子どもの頃の学校の話を聞いてみると、教師は、生徒が悪い事をすれば、殴って叱ってくれたという。昔にすれば当たり前の事かもしれない。だが、今の学校では、あまりそういうのは見られない。家庭でも同じである。つまり、今の子どもたちは、悪い事をしても、大したことはない、と思っているかもしれない。昔の子どもたちは、小さい頃から悪い事をすれば叩かれる。言い方が悪いかもしれないが、子どもはそれに恐怖する。小さい頃に身に着いたことは、なかなか抜けない。叩かれて育った子どもは悪い事をしようと思っても、体にしみついた恐怖が出てきて出来ないと思われる。しかし、だからといって、すぐに手をあげ過ぎれば、必ず子どもは親を嫌いになる。子育ては難しいものですな。Ⓝ

編集後記

今年度、六号目の新聞になる。隔月の発行で年六回の発行という目標は、ほぼ達成できた。ほぼとしたのは、きちんと二か月に一号ずつ発行することができなかったからだ。それでも、よく六号も出せたなあ、という思いがある。これまで記事がなかなか集まらないで苦労した。学校の行事を報告するのに、字数を書ける者がほとんどいなかったのだ。しかし、青少年問題やニュース、スポーツといったことについて割り当てをしたら、それなりの分量を書ける出版委員がかなりいることが分かった。これからは、委員のほか、多くの生徒が思っていることを示せる新聞にし、隔月発行を目指したい。